

---

# 力を手にいれし者

S.S.

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

力を手にいれし者

### 【Nコード】

N1550D

### 【作者名】

S・S・

### 【あらすじ】

少年が仲間と共に冒険する。少年が力を入れたとき、何かが起こる。

## 序章：闇の世界で（前書き）

初めて書く小説です。

小説と呼べるものにはしていきたいと思うのでよろしくおねがいます。

## 序章：闇の世界で

「ウツツ！！！！！ウツツ！」

うめき声が響く。

「ツツツ！・・・ここは・・・！！ここは！？！？私は・・・ここは何処だ！？」

男は、叫んだ。何も分からず、辺りを見回す。

「ここは！？なんだここ！？周りが見えない・・・なんだこの闇は！？」

闇の世界。物音一つしない。静まり返った世界。

「出口は！？私は・・・ここにいるわけには・・・」

走る。しかし、走れど走れど、闇のまま、突き当たる事もない。走ってきた足音だけが鳴り響く。何もない無の世界。

「ハアハアハア・・・なんだ、なんなんだ・・・この世界は・・・」

響き渡る足音。呼吸の音もよく聞こえる。何もない世界を男は走り続ける。

「クツツ・・・ダメか・・・。奴は・・・いったいどうなったんだ・・・私は・・・出来なかった・・・。ウツツ！！」

バサッッ

男は倒れこんだ。無念の念を抱きながら、何かを気にしながら、何をする事も出来ずに。

続く

## 序章：闇の世界で（後書き）

早くの行き当たりばったりになりそうな予感です・・・。

## 第一章：旅立ちの日に

「タクト！！！！早く起きなさい！遅れるよ！」

大きな声が家を飛び出し、草原を駆け抜けた。

「う・・・うん・・・」

ベッドの上から、小動物が呻いたかのような弱々しい声がする。

「早くしなさい！！！！アンタ誕生日ぐらい早く起きれないのかい！！！」

周りに家が一軒もないことをいい事にとてつもない大声を出す。

「！！！！！！！！今日！！！！？やつべ！」

少年は何か大切な事を思い出したかのように飛び起き、ズドン  
！！ と転げ落ちた。

「いてえ・・・」

あまりの痛さに声にもならない。

「！ヤバイ！！早くしないと・・・」

少年は、驚くほどのスピードで服を着替え、

「母さん！じゃあ行ってくる！！！」

とだけ言い、家を飛び出した。

「全くあの子は……。今日が何の日だか分かってるだろうに……。第一、これが長い別れになるって事が分かってんのかねえ。そうだ。ジェイムズさんに、連絡しなきゃね。」

母親が心配しているのを知らずに、少年は草原を町の方角に向かって進む。

「この草原ともお別れか。もうチョットゆつくり出てこれば良かったかな……。」

そう言いつつ、進み続ける。

天気は快晴。一転の曇りもなく、心地良い風も流れ、さわやかな天気である。

「いい天気だ。早くおじさんの家に行かないとな。」

おじさんとは町で一番長生きしている老人である。頑固な人でおじいさんと呼ぶのを極端に嫌がる。だから皆、おじさんと呼んでいる。

「町だ！早く行こう！遅れると怖いからな……。」

そうついて少年は町に向かって駆け出した。

今、少年の目の前には古びた洋館が建っている。扉をカンカンとノックする。しばらくたって、扉がギツギギツギーと嫌な音を立てながらゆっくりと開く。



中からは、ひげの立派な男性が現れた。

「おつ、お久しぶりです。ジェイムズおじさん。」

あらたまつて挨拶をし、お辞儀をした。

「いつ見てもお若いですね。」

「何を言っている。私は、今年で92だぞ。若いも何もないだろう。」

「いえ、本当にそこの60代より十分若い。」

少年はそういった。しかし、お世辞ではない。

90を越える高齢ではあるが、その姿は、直立不動とも言つべき姿勢にキツと見開いた鋭い目、武術をたしなんでおり、衰えを知らない強靱な肉体を持っていた。

「今日だったかな？君の誕生日は。」

「はい！」

「では中に入りたまえ。旅立ちの儀式を始めよう。」

二人はその洋館にゆっくりと足を踏み入れた。

## 第二章：伝説の前に

沈黙が続く。長い長い廊下を歩き続ける。にぎやかな町の音すらない。沈黙の世界がそこにあった。

「では、略式ではあるが、旅立ちの儀式を行おう」

沈黙を破ったのはジェイムズだった。

「はい。」

沈黙の世界の中、返事の声が響く。

「では、儀式の間へ。」

そういうと、ジェイムズは一番奥の部屋の扉を開いた。

部屋には、儀式を行うためのセットが組まれていた。奥には台が置かれており、手前には椅子が、天井は光り輝き、周りは古代人が描いたかのような壁画に囲まれていた。また、台のさらに置くには扉があり、その扉には、未だ見たことのない文字が書かれていた。

「これは……。すごい。」

「では、其処の椅子に。」

ジェイムズは奥の古びた台の上に立ち、タクトは手前の古びた椅子に座った。

古びた台には、不思議な模様が刻み込まれている。太陽の紋様が刻まれているようだ。一方、タクトの座る椅子の背もたれにも、不思議な文様が刻まれている。こちらは月の紋様のようだ。

「これより儀式を行う。準備は良いか？・・・と言っても準備など無いだろうが。」

「はい。どうぞ、お進めください。」

タクトは返事した。

ジェイムズは咳払いした。

「では、これより旅立ちの儀式を執り行う。」

「汝、タクトは、これより伝説を学び、此処に誓いを立て、旅に出る事となる。」

「このリツフェ国を含む、ヴァンリカンド連合王国には昔から、14歳になると旅に出ると言いつきたりがある。この旅で、汝は、世界を学び、世界を知り、強くなり、成長しなければならない。そのために、旅に出る前に伝説を学び、最低限の知識を得なければならぬ。よいか？」

「はい。わかっております。どうぞ。お話ください。」

「では、伝説を伝えよう。これは、はるか昔、この地に人も、何も無かったところから始まる。」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1550d/>

---

力を手にいれし者

2011年1月23日02時22分発行